

番 号	15請願第11号 (建設付託)
受理年月日	平成15年 9月 3日
件 名	子どもたちのための「みどりの広場」の確保について
提 出 者	子どもたちのみどりの広場の会 代表 松島 真理
紹介議員	緒方 一郎、大城 美幸、杉本 英騎
要 旨	
<p>〔趣旨〕</p> <p>2003年6月三鷹市議会において、新川みどりの広場(新川六丁目)を農業公園(仮称)として整備することが審議され、係る補正予算が承認されました。</p> <p>三鷹の農と緑を支援する農業公園整備の趣旨は大変意義のあることと考えます。一方で、新川みどりの広場は、三鷹市に残された数少ない「遊具のない」「自由に遊ぶ余地のある」広場であり、たき火ができる、緑が多いという点でも貴重な場所として、これまでも多くの子ども会、自治会、有志団体を初め、さまざまな人々が思い思いの活動を展開してきた「地域活動の重要な拠点」です。また、団体としての活動以外にも、子どもたちが泥んこになりながら走り回ったり、竹トンボや紙飛行機を飛ばしたり、近隣の方々がピクニックや散歩をしたりとさまざまな目的でこの場所を利用してきました。</p> <p>農業公園構想自体については、以前から市と市民による討議が行われていたが、その場所が「新川みどりの広場」であるということについては、6月議会において初めて市民に公開され、計画が議会の承認を得た後の8月5日に説明会が開催されました。このたびの計画について、広場利用者として十分に対話に参加する機会を得ず、三鷹市がうたう『市民と行政との協働』の精神を生かすことができなかったことを大変残念に思っております。</p> <p>子どもたちの成長に「ゆとり」「自由」「自発」の体験が必要であるという認識は、今や多くの人の共有するものとなりました。プレーパーク(冒険遊び場)設置の動きは、全国に広がっています。こうした潮流の中、第3次三鷹市基本計画や市民プラン</p>	

21の最終提言でも触れられていた「プレーパーク的な活動」ができるものと期待していた広場 新川みどりの広場が農業公園になるということは、地域における子どもたちの豊かな体験と成長の場が失われることとなります。工場跡地や農地が次々と高層住宅に変貌していく現在、このまま手をこまねいては、「子どもたちのための開かれた場所」は、あっという間に失われてしまいます。行政と市民とがともに「地域で子育て」「子どもたちの育ちの場」の重要性を強く認識する必要があります。次代を担う三鷹の子どもたちの成長と学びの場の重要性について十分にご理解いただき、以下の点について尽力いただきたく、お願い申し上げます。

- 1 子どもたちの広場が失われることは、子どもたちにとって、社会にとって、そして未来にとって大変な損失である。子どもたちが豊かに暮らせるまちづくりという視点から、現地の保全を含めた今回の計画の見直し、または、代替地の確保を早急に行うこと。
- 2 今回の農業公園構想の具体化の過程では、市民に対する情報公開や対話の場が十分機能しなかったように感じられる。1のような子どものためのまちづくりを考えるに当たって、「協働」の手続を重視し、積極的に話し合いの場を持つこと。
- 3 子どもたちの居場所を確保するのは、至急の課題である。したがって、その対策について具体的なロードマップを提示し、情報を積極的に市民に対して発信すること。